

今年度より小学校の外国語活動では、これまでの「英語ノート」に代わり「Hi, friends!」が活用されるようになりました。「Hi, friends!」は、「英語ノート」のよさを生かしながら、児童同士が積極的にコミュニケーションを図る活動がこれまで以上に取り入れられていることが特色です。

それぞれの小学校で、学校や学級の実態に合わせて「Hi, friends!」を活用することが大切であるのはもちろんですが、中学校においても小学校の取組内容を理解しておくことが重要です。

「Hi, friends!」を活用した授業の進め方について 文部科学省初等中等教育局教育課程課の直山木綿子教科調査官のお話を紹介します。

## 発信1

### 「Hi, friends!」を活用した授業の進め方



#### Point 1

学習指導要領の目標にある3つの柱を踏まえて活動を仕組むことが大切

#### 【3つの柱】

- ①外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める
- ②外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る
- ③外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

これらを踏まえて、「Hi, friends!」の全単元に、次の4種類の活動が、設定されています。

**Let's Listen**  
繰り返し聞き慣れ親しむ活動  
だれがどんな様子か、線で結ぼう。

**Let's Play**  
繰り返し聞いたたり言ったりして慣れ親しむ活動  
どんなことを表しているか、□に番号を書こう。

**Let's Sing / Chant**  
日本語と外国語の違いや共通点を通して言語の面白さや豊かさに気付く活動  
Hello Song

**Activity**  
外国語を通してコミュニケーションを図る楽しさを知る活動  
ジェスチャーをつけてあいさつしよう

これらの活動〈Let's Listen〉〈Let's Play〉〈Let's Sing/Chant〉〈Activity〉を児童が繰り返し体験することで、コミュニケーション能力の素地の育成を図ることが大切です。



## Point 2

語彙や表現と出合う場面を工夫することが大切

【例】「Hi, friends!」 1 の Lesson 3

**Let's Play 1** じゃんけんゲーム 何回勝てるかな?

【単元で扱う語彙・表現】「one ~ twenty, How many ~ ?」  
 【出合う場面】 「じゃんけんゲーム」  
 ・じゃんけんを10回行い、勝ったら○、負けたら×を記入する。

1回目	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10
2回目	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10

How many circles? One circle? Two circles? ..

・児童は、自分の○の数を数え、挙手する。

児童にとって、身近な場面を設定し、その中で単元で扱う語彙や表現に出合わせることで、児童はこれらの意味を推測することが容易になります。こうした例を参考に各学級の実態に合わせ、出合う場面を工夫することが大切です。



## Point 3

〇〇学校の、〇〇学級の、〇〇さんの「Hi, friends!」となるように！

「Hi, friends!」は学習指導要領を具現化した一例ですので、各学校、学級の実態に合わせて児童がより聞きたい、より話したくなる活動にアレンジしていくことが大切です。

【例】「Hi, friends!」 1 の Lesson 9

**Menu**

ランチメニューを作り紹介する活動

栄養素(赤、緑、黄の群)を取り入れたメニューを作り、クイズ形式で紹介する活動

**ランチメニュークイズ**

児童 : Hint, please.  
 発表児童 : OK. What color?  
 児童 : Red, please.  
 発表児童 : Red . . . , chicken.  
 児童 : Chicken burger?  
 発表児童 : No, not a chicken burger.  
 児童 : Hint, please.  
 発表児童 : What color?  
 児童 : Green, please.

他教科等で学習したことを採り入れたり、相手意識のある活動にしたりすることで、児童が話す内容に児童自身の思いが盛り込まれ、まさに聞きたい・話したい内容となります。

その際のポイントとしては、

①他教科等と関連した活動にすること

②相手意識のある活動にすること

となります。

学級担任は、他教科等の学習内容や、児童の興味・関心を把握しやすいので、まさに学級担任が進める外国語活動となるポイントでもあります。

学級担任の先生方は、外国語を使おうとするモデルになることを意識し、外国語活動の授業を進めていくことが重要です。

(出典：「内外教育」時事通信社 平成24年7月24日発行 6181号より)

**担任は、外国語を使おうとするモデルに！**

